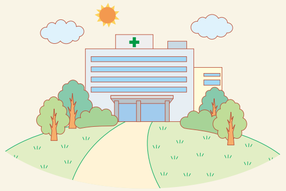
兵庫県立尼崎総合医療センター（仮称）

いつ？　どんな？　どこに？

病院が建つの？



1. **開院時期**
   平成27年5月 予定
2. **建設場所**
   尼崎市東難波町２丁目（尼崎市立尼崎産業高校跡地）
   阪神尼崎駅から、北に約1.5ｋｍ
3. **構造規模**
   鉄骨造一部鉄骨鉄筋コンクリート造（免震構造）
   地上11階・地下1階・塔屋2階、延床面積約77792.36㎡
4. **病床規模**
   病床数：730床、39診療科
   （うち、救命救急54床、総合周産期母子医療センター33床、感染8床）

建築現場から

お知らせ　ここまで建築工事が進んでいます。

建設工事がスタートして、約1年半。ついに、姿を現した新病院！

平成24年10月20日に安全祈願祭と起工式がおこなわれ、尼崎市立尼崎産業高校の解体で始まった建築工事も、その後、順調に進行し、昨年11月には、地下部の免震装置設置などの基礎工事も終わり、地上階の鉄骨組み立て工事が行われていました。

解体工事後（平成24年11月末ころ）

そして、今！

南東部からの全景（平成26年6月1日）

地上11階+地下１階の鉄骨工事を無事完了！

今年4月に入り、残りの校舎の解体工事がおこなわれ、4月28日には、ついに地上１１階の鉄骨工事が上棟しました。

そして、建物の主要な構造体を作る躯体工事では、6階のコンクリートを枠の中に流しこむ打設をしています。

また、内装仕上げ工事（耐火被覆工事、内部周仕切り壁など）と外装工事（外壁パネルやタイル張り、サッシ取り付け）が進行中です。

癒しのコンサート　爽やかな音色に癒されたひとときを

去る5月24日（土）県立尼崎病院に、今年も武庫川女子大学付属中学校・高等学校オーケストラ部19名をお迎えし、恒例となった「癒しのコンサート」を開催しました。

ジブリ映画"魔女の宅急便"より「海の見える街」、アンジェラ・アキ「手紙 ～拝啓十五の君へ～」などの馴染みある曲をまじえ全10曲が披露され、最後に「ふるさと」を皆で合唱しコンサートを終えました。

短い時間でしたが、普段聞く機会の少ない弦楽器の素敵な音色に、患者さまをはじめ職員も癒され、素敵な午後のひと時を過ごしました。また、病院での演奏ということで、少し緊張気味だった彼女たちにとっても、今回の演奏経験は、きっと、今後の音楽活動の糧になるでしょう。

名まえ　広報誌「あまが咲だより」、その名づけ理由は…

来年5月の県立尼崎総合医療センター（仮称）開院に向けて、今月号よりリニューアルした両病院の広報誌「あまが咲だより」はいかがでしょうか？
この名称は、両病院の職員への公募にて集まった中から、塚口病院 眼科の視能訓練士 安房田愛子さんと看護補助士 安本由愛さんの提案にて名付けられました。

名づけ理由　安房田 愛子 ・ 安本 由愛

尼崎市の診療所や病院、患者さまが一体となって尼崎総合医療センターが発展していけるように、"未来に向かって花が咲いていくイメージ"や"患者さまの笑顔がたくさん咲くように"と願い、「あまが咲だより」にしてはどうかと思いました。

新病院には、お年寄りから子供まで様々な患者さまが来院されると思います。「あまが咲だより」を通じて、新病院の医療機能、疾病など様々な情報を皆さまに提供することにより、新病院に親しみを感じてもらい。身近に感じられる広報誌であってほしいです。

編集後記

紫陽花の花が咲く季節となりました。6月より県立尼崎病院広報誌「和！輪！わっ！」と県立塚口病院広報誌「ほっと塚口病院だより」が統一され、県立尼崎総合医療センター（仮称）の広報誌「あまが咲だより」として新しく発行されます。毎号、新病院の各科を順に紹介していきますのでご愛読ください。
（広報委員会　北野則和）

兵庫県立尼崎病院
〒660-0828 兵庫県尼崎市東大物町1丁目1番1号
TEL 06-6482-1521(代表)　FAX 06-6482-7430
http://www.amahosp.amagasaki.hyogo.jp/
兵庫県立尼崎病院　検索

兵庫県立塚口病院
〒661-0012 兵庫県尼崎市南塚口町6丁目8番17号
TEL 06-6429-5321(代表)　FAX 06-6422-7405
http://www.tsukaguchi-hospital.net/index.html
兵庫県立塚口病院　検索

発行　兵庫県立尼崎病院　兵庫県立塚口病院
企画協力・デザイン・印刷　兵田印刷工芸株式会社

地域と医療で咲くコミュニケーション

あまが咲だより

2014. 6.
No.1

県立尼崎総合医療センター（仮称）

［院長挨拶］

統合を先取りして広報誌を"あまが咲だより"に！

皆様にお願いがあります

近松門左衛門「平家女護島」
撮影：三宅晟介

お知らせ

建設工事が
スタートして、約1年半。
ついに、姿を現した新病院！

兵庫県立尼崎病院　兵庫県立塚口病院

日本医療機能評価機構

院長挨拶

統合を先取りして広報誌を“あまが咲だより”に！

“皆様にお願いがあります”

兵庫県立尼崎病院・県立塚口病院院長　藤原久義

来年、統合新病院「兵庫県立尼崎総合医療センター（仮称）」開院！

県立尼崎病院と県立塚口病院の統合病院、兵庫県公立病院として最大規模の「兵庫県立尼崎総合医療センター（仮称）」が平成27年5月頃に両病院のほぼ真ん中の旧尼崎市立産業高校跡地に新築・開院します。

両病院の長所を生かし短所を補う統合病院は730床の大病院で、阪神南・北地域175万人を対象にした“マグネットホスピタル”です。

◎統合を先取りして、“あまが咲だより”を創刊

これまで、県立尼崎病院の広報誌は“和！輪！わっ！”で、塚口病院のそれは“ほっと塚口病院だより”でした。今月から広報誌は、統合を先取りして、“あまが咲だより”に統一されます。この号が創刊号になります。広報誌名はみなさんから公募して決めました。これからも皆様から愛されることを願っています。

◎統合のための準備：「すでに県立尼崎病院も塚口病院もなく、あるのは統合病院のみ！！」

私共両病院の職員一同、この統合を全国病院統合のモデルケースにすべく、心を一つにして頑張っています。
病院統合にはハード面の建物の統合も重要ですが、各診療科の診療方針・医療情報（電子カルテ）・薬品の種類・検査データ・看護システム・役職等のソフト面の統一という難題を抱えています。その中で一番厄介なものは、一年後には両病院が無くなるのにかかわらず、いまだに、私は尼崎病院の職員、私は塚口病院の職員という思いを抜け出せず、自分の縄張りを守ろうとする人間の心です。これは会社や市町村の統合でも同じと思います。統合病院が成功するためにはこの縄張り意識から脱皮して、今から一人一人が統合病院の職員という気持ちになりきることが重要です。

そのために、統合病院の開院は一年後ですが、院長の併任をはじめ、あらゆるレベルで人事交流を行い、尼崎一塚口病院間のシャトルバスも運行し、すでに一つの病院であるかのように交流し、頑張っています。救急や入院の患者様についても、一つの病院として、ベッドや手術室が空いている病院に移動してもらい、医師も両病院を行き来するようにしています。

◎皆様にもお願いがあります

患者・市民の皆様、医療関係者の皆様方にもお願いがあります。県立尼崎病院も塚口病院も長い間、県尼ファン、県塚ファンの皆様方によって支えられてきました。本当にありがとうございます。しかし、あと一年で両病院はなくなります。今からイメージチェンジして「兵庫県立尼崎総合医療センター（仮称）」ファン になっていただきたいと思います。

我々両病院の職員一同、大きな夢に向かって頑張っています。
なにとぞ、よろしく、お願い致します。

兵庫県立尼崎総合医療センター（仮称）

統合新病院オープン！
平成27年5月（予定）

新病院の基本理念

マグネット・ホスピタル（※）の機能を有する阪神地域の総合的な基幹病院として、良質かつ適切な医療を提供することにより、県民の安全と安心の確保に貢献するとともに、医学の発展に寄与します。

※マグネット・ホスピタルとは
充実した診療体制や施設・設備を有し、高度専門医療を提供するとともに、高い人材育成能力を持ち、医師・看護師等を引きつけるだけではなく、患者さまからも高い信頼を得ている魅力ある病院

運営の基本方針

1. 患者さまの立場に立った医療サービスに努め、患者さまと医療従事者の信頼関係に基づいた医療を提供します。
2. 阪神地域の総合的な基幹病院として、医療の進展に対応するとともに、充実した診療体制のもと、先進的な高度専門医療を提供します。
3. 患者さま・ご家族、地域の医療機関、保健機関、福祉機関等と相互に連携し、切れ目のない地域医療の実現に寄与します。
4. 大規模な自然災害や事故、強力な感染症の流行等の発生時において、県民の安全と安心の確保に貢献します。
5. 医療事故、院内感染等の防止のための医療安全対策を充実し、患者さまにとって安全で安心な病院づくりを目指します。
6. 体系的なプログラムに基づいた教育・研修・研究を行い、医療従事者の養成並びに医学の発展に寄与します。
7. 効率的な病院運営を図り、安定かつ持続して高度専門医療を提供します。

新病院での診療の体制

複数の診療科と多職種の協働により、急性期患者さまに対して、効果的かつ効率的な医療を提供するため、専門センター制を導入します。

救急・総合医療	救命救急センター	各診療科との密接な連携体制を確立し、地域医療機関との連携と役割分担のもと、3次救急に対応し、救急患者さまに24時間365日断ることなく対応するＥＲ型救命救急医療を提供します。
	総合診療センター	専門診療科で対応困難な患者さま、緩和医療、生活習慣など総合的に治療を行う全人的医療等を必要とする患者さまを対象とし、関連診療科との連携のもと、成人に対する総合的な医療を提供します。
成育医療	総合周産期母子医療センター	関連各診療科との連携のもと、ハイリスク妊婦や新生児に対する救命救急医療を含めた総合的な周産期母子医療を提供します。
	小児救命救急医療センター	小児中核病院として、地域の小児救急医療体制において、小児の2次及び3次救命救急医療を24時間365日提供します。
	小児総合診療センター	小児中核病院として、小児に対する高度専門的な診断、検査、治療を実施します。
高度専門医療	循環器センター	救命救急センターと連携しながら、循環器内科、心臓血管外科、小児循環器内科が協働し、心筋梗塞、狭心症、心不全、大動脈解離、先天性心疾患等の治療を実施します。
	神経・脳卒中センター	救命救急センターと連携しながら、神経内科と脳神経外科が協働して、脳卒中や脳動脈硬化等の血管内治療、神経変性疾患等の治療を実施します。
	がんセンター	関連する診療科と連携し、手術、放射線治療、化学療法を有効に組み合わせることにより、患者さまにとって最適な治療を行うとともに、放射線照射による治療や緩和医療を実施します。
	生活習慣病センター	高血圧症、高脂血症、糖尿病、糖尿病腎症等の生活習慣病の予防と総合的な診断・治療を実施するとともに、危険因子である喫煙に対する禁煙治療を実施します。
	消化器センター	がんセンターと連携し、消化器内科と消化器外科が協働し、消化器がん、肝炎・肝硬変等の消化器疾患の治療を実施します。
	呼吸器センター	がんセンターと連携し、呼吸器内科と呼吸器外科が協働し、肺がん、中皮腫、慢性閉塞性肺疾患等の呼吸器疾患の治療を実施します。
	先端・再生医療センター	臨床研究を終えた最先端医療を導入し、QOL（患者さまの生活の質）の改善を図るとともに、将来的には臓器移植が可能な準備を実施します。